

平成28年度第1回

香美市総合教育会議議事録

日時 平成28年5月26日
午前10時00分 開会
場所 香美市役所3階会議室

1 招集場所 香美市本庁舎 3階 会議室

2 会議の日時 平成28年5月26日(木)
開会：10時00分 閉会：11時43分

3 会議出席者等

(構成員)

市長	法光院	晶一
教育委員長	宮地	憲一
教育委員	浜田	正彦
教育委員	西	美紀
教育委員	竹平	豊久
教育長	時久	恵子

(事務局)

教育次長	小松	美公
総務課長	山崎	泰広
教育振興課長	横山	和彦
生涯学習振興課長	久保	和昭
教育振興課主監	上村	安和
総務課	池澤	卓也
教育振興課	西村	愛由

(傍聴人)

なし

4 議事

- (1) 香美市教育大綱(香美市教育振興基本計画)の進捗状況について
- (2) その他報告等について

5 議事の経過

(開会 午前10時00分)

(山崎総務課長)

定刻が参りましたので、平成28年度第1回香美市教育総合会議を開催いたします。それでははじめに市長よりご挨拶を申し上げます。

(法光院市長)

皆様、おはようございます。平成28年度第1回の香美市総合教育会議を開催しましたこと、皆様には、公私共に大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、香美市の教育の充実のためにご尽力いただいていることに対しまして厚く御礼を申し上げます。

本日、会議を招集しましたのは、香美教育大綱の進捗状況につきまして報告をいたしまして、皆様方にご意見をたまわりたいということでございます。この大綱は、大変大事な内容でございますので、忌憚のないご意見、十分なご審議をよろしく願いいたしまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。それでは、本日の議事に入っていきたいと思えます。香美市の教育大綱の進捗状況について、幼保、生涯学習、学校教育のそれぞれから報告をお願いいたします。

この後の意見交換に反映するため、報告の要点を絞って、『学ぶ』『つながる』『未来を拓く』に絞った形でお願いします。まずは、学校教育から報告をお願いいたします。

(上村教育振興課主監)

「学ぶ」のところは、資料の6頁までになります。いろいろな活動をさせてもらっていますが、資料の3頁の3番目のところに「管理職研修の充実」というのがあります。こちらの方は評価が落ちているのですが、現状としては、校長と教頭が合同で研修する機会がないということがあります。また、保育園の園長を含めての実施については、計画的にできておりますが、その内容についても研修内容を深めていく必要があるだろうということで評価を落としているところであります。

5頁の「学力向上プロジェクト事業」については、『学力』というところがポイントになるということですが、ご承知のとおり小学校の部分は全国よりも3ポイント程度プラスということになるのですが、中学校の学力の状況としてはまだまだ課題が多いところです。「中学校学力向上推進」というところにもかかってきますが、マイナスポイントで伸び悩み、特に数学については10ポイント近くマイナスと課題が出ておりますので、しっかりとした対応をしていかななくてはならないと思っているところです。

これからの課題になりそうなものとして、「香美市チャレンジ塾」というのがありますが、こちらは放課後の子ども教室、学習教室、県が示している貧困の部分でのしっかりとしたこれからの力を入れる部分になってこようかと思えます。

6ページの7番の「体力の向上」ですが、香美市の子ども達は体力の方でいい結果が出てきていると思います。小学校につきましても全国と比較しても上位の結果が出ています。中学校の女子が、今課題が出てきていますが、男子もいいデータが出てきており、このあたりはしっかりと継続して進めていきたいと思っています。『学ぶ』のところについては以上です。

(山崎総務課長)

ありがとうございます。次は『つながる』についての部分ですが、続けてお願いします。

(上村教育振興課主監)

『つながる』の部分において、7ページの4番の「香美市小中学校子ども会議」については、市長も参加いただいた部分になるのですが、評価としては、昨年スタートしたものであるのですが、お祭りであったり、リーフレットであったり、歌であったりという形にしていきながら発展をしていく要素もありますので、内部評価5とさせてもらっています。他の取組についても、内部評価はいい評価になっているだろうと思います。『つながる』の部分は以上になります。

(山崎総務課長)

それでは『未来を拓く』の部分についてお願いします。

(上村教育振興課主監)

『未来を拓く』の部分は11ページになります。このページの1番の「ICT機器整備」については、学校の方で機器が十分整備もされて行って、本当に感謝申し上げます。2番、3番の「情報モラル」「情報リテラシー」のうち、「情報モラル」については、工科大の学生にも学校に入ってきて、SNSなどを中心とした講習なども行って、今年もまたお願いしたいと思い、進んでいるところです。警察の方にも入ってもらい進んでいるところです。ただ、「情報リテラシー」のところは、学校の方がうまく使っているのですが、公務の方で、先生方にもっと技術を磨いてほしいという思いがあります。もっと活用していきながら、効果的な学習に仕上げていければと思います。

あと、6番のところに「外国語教育の推進」があります。こちらは、平成26年は『2』でしたが、平成27年は『5』ということで、外国語のALTの配置を含め、学校体制もしっかりと進めながら、コラボの英語部会の立ち上げもできていると思っています。以上になります。

(山崎総務課長)

学校教育の『学ぶ』『つながる』『未来を拓く』の3つの視点からの報告が終わりました。ここまでについて質疑を受けたいと思います。ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

(浜田委員)

小中の連携の部分の課題ですが、多くの問題点があって、中学校の学力、その他がうまくいっていないと思いますが、ご説明をお願いします。

(上村教育振興課主監)

一番、小中の接続がうまくいっていないと思います。

(浜田委員)

そこがうまくいっていないがゆえに、課題として連携・接続が出てきているのでしょうか。この

接続がうまくいき始めたら、中学校の学力、その他の部分がスムーズになっていくと思いますが、接続がうまくいかないと、リセットではないが、子ども達にとってそこから始めていかななくてはならない。その課題というか、どういう部分でうまくいっていないのか教えてほしい。

(上村教育振興課主監)

結論から言えば、先ほど言われたようなことではありますが、小学校でしっかりと育てていったものが、中学校に引き継がれていっていないということが現実だと思います。小学校で特別支援教育を中心としながら、しっかり引き継いでいこうとしています。小学校でどれだけの力を持っているか、中学校には分かりきってない部分があるかと思っています。例えば、小学校でできているはずなのに、中学校で分かっていないだろうと「ゼロスタート」でしてしまうので、やはり小学校でできている部分をしっかり積み上げていって、中学校でさらに伸ばして行くとやるということが本来の姿だと思いますが、もっと小学校の方に行き、小学校の子ども達の姿を見て、どのように中学校につなげていったらよいか、それが非常に大事になってくると思います。そのために、昨年度でしたら教頭会、中学校の教員も入れて小学校6年生の授業をしっかり見ながら、つないでいく、そのようなこともやってみました。書面以外でのつながりを昨年やっていって、評価もしていきたいと思っています。

(山崎総務課長)

今、発言があったのが一番の課題というところで、その取組みを始めたという報告です。それに対してのご意見はどうでしょうか。

『学ぶ』については数字が出てきますので、評価ができることだと思われそうですが、そのほかにも原因というのがあるのでしょうか。全体からみると保小の連携がうまくいっているような報告と思われそうですが、いかがでしょうか。

(上村教育振興課主監)

保小もこれからです。地域を指定していきながら、形にしていっていますが、しっかり広げていく段階になっています。

(山崎総務課長)

『学び』の部分では、接続について全体的に課題がまだあるという現状認識でいいですか。

(上村教育振興課主監)

鏡野中学校へ昨日も行きましたが、小学校の教員が2名、今回の異動で鏡野中学校へ入っています。宿題について話題が出ていましたが、宿題の出し方が一変しています。宿題をいろいろな教科で出していくのでアンバランスなところがあったと思いますが、そこをしっかりと統一して、ちょっと多いと思われるぐらいの宿題を出していきながら、家庭学習につなげていっているという発言がありましたので、前に進んでいるように思いました。

(山崎総務課長)

新たな取組み、教育施策の一つとして取り組まれていることと思うのですが、学校等の取り組みについてご意見はありませんでしょうか。

(宮地委員長)

「中1ギャップ、小1プロブレム」という言葉が使われていますが、中学校に入学する段階では、子ども達にとっては、かなり壁が高いといわれています。そのために今回の試みとしては、鏡野中へ小学校の先生が配置されたと、非常に評価できると思います。

先ほどからお話くださったように、学校は変わりつつあります。同時にアプローチカリキュラムとスタートカリキュラム、これを良く言われていますが、現在一部の保育園、小学校でしかやられておりません。そういった事を早急に対処していくことが必要ではないかと思いました。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。関連でご意見はございませんでしょうか。

(時久教育長)

いろいろな専門家にも来ていただき、アドバイスもいただきながらやっているところです。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムについては、「カリキュラム」ですので、書いたものがありそうなイメージですが、何があるかという、アプローチはアプローチしていくものだから、「保育園がこんなふうに行っている、小学校にこれを繋いでください」というカリキュラムなわけです。これがここにあるカリキュラムではなく、ずっと保育園のやっていることがアプローチなのです。ここが保育園らしく十分に作られていないと、その延長線で小学校に行くので保育園らしい保育、つまり教育の視点として入っている、自立を目指して保育園での遊びを中心に自分でやるためのカリキュラムでやっていきたいと思います。グーと伸びてくるのでその積み上げに小学校に入ったときに赤ちゃんに戻さずに、育ったところを基にして、小学校の教育をつくっていきましょう。その時にスタートカリキュラムがあって、小学校をスタートするカリキュラムで、これはちょっと期限があっても長くても4月、5月くらいですね。そこから小学生になってしまうので。つなぎの部分の段差を少なくし、小学校に入った気分を高めるために、「よし、やるぞ」の部分をうまくだす。保育園のアプローチしていくものと、小学校をスタートしていくために、それをしっかり踏まえてやっていけるように、それらをつなぐのがアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムという言い方をしているわけです。国から来た先生が、アプローチとかスタートとか、切れ切れのように聞こえるので、「接続カリキュラム」という言い方で、その2つが接続カリキュラムに位置づいているやり方をしなさいと言われていました。そういう視点で見たときに、以前よりはそれを意識してやってくれているのですが、アプローチ部分のずっと通ってきた保育が、もっと子どもが自分でできるようになる視点を強くして、今後やらなければいけないだろうと思います。小学校は今聞いていただいたような課題で、先生達が保育園の保育を理解しきれていないので、その延長線上でずいぶん決めごとが多くなるのが課題となっています。そこへ切り込んでいくところです。

(浜田委員)

これから行く先のこと、小学生が中学生、保育園が小学校を見学するとかいうことはありましたか。

(上村教育振興課主監)

一日体験入学とかはあります。

(浜田委員)

例えば6年生じゃなくても5年生が行って、こういうことを学んでいかななくてはいけないんだというような意識付けをするようなことはやっていますか。

(上村教育振興課主監)

そういうような場面は準備をしています。

(山崎総務課長)

ご質問、ご意見が出ていますが、保護者の視点でご意見はありませんか。

(西委員)

小学校で高い学力が、なぜ中学校になって下がってしまうのか。保護者として不思議だなと、日頃から思っています。一日体験入学で6年生が中学校に行ったり、保育園児が小学校に行ったりとか、半日程度、学校の雰囲気を生で体感してくるというのがありますけど、半日ぐらいで気持ちを高めるというのは難しいのかなと。実際にもう少し、1日から3日ぐらい行けば、自分の中で心構えがわいてくるのではないかと思います。1日ぐらいは、子ども達も「楽しかった」といいますが、それだけで終わってしまう部分があるのかなと感じたりしています。職場体験も同じで、1日ぐらい行ってもお客さん扱いで、実際はどうなのか分からないので、最低3日とか4日とか行った方が「働く」という意味を本人が感じ取ってくるということがあると思います。それと同じで、「中学生になる」ということを感じ取るためには半日ではあまりにも短いのではないかと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。保護者ならではの意見だと思います。

(法光院市長)

資料5頁の『学ぶ』のところの「中学校学力向上推進」についてですが、全国の平均値より低いという話をされていて、内部評価が3から2に下がってきているわけですが、これの評価をする基準になっているのは、1、2年生の学力を低下させないこととか、30年までに一定の目標まで引っ張り上げようとか言うことを基準にしていると思いますが、評価が『3』から『2』に落ちたのは、調査の結果、数値が下がったことを示しているのか、それとも目標としているものからほど遠いのか、何が基準になっているのか。もう一点は、この内部評価は、見る方からしてみれば、数字が上がれば非常にいいわけですが、評価をされているのは誰かということになっていると思います。教育関係者、現場の人たちにとって大事な評価の点数になっていると思いますが、果たしてこの評価が学校の中では、自分達の身近なところでの数値は分かっているが、香美市全体の中ではこういう評価がうたれているんだということを受け止めているのか。そのところを2点お願いします。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。2点質問をいただきました。1点は、評価の基準であることと、もう一つ、評価者は誰で、どう受け止めているのかということですが。

(上村教育振興課主監)

基準については、30年の一つの節目、前期の終わりという目標を持っているので、進捗管理の数値から言うと「そこまで行っていない」というところで、中学校の点数だけでいうと、3.3となっていると思いますが、そちらの方を睨んでいるときに評価を下げていると思います。それと先生方については、この評価は、教育委員会のとらえ方としてとらえていますが、先生方には、5段階評価ではなく「中学校の学力は非常に課題がある」ということを市からも示してありますし、「こういうふうな施策をとっていく」という理解へもつなげていってもらおうと思います。

(山崎総務課長)

ほかに意見がありませんでしょうか。

(西委員)

学校の先生方や、教育委員会の中では中学生の学力に課題があるというのはみんなが分かっていることだと思いますが、中学生自身が「もっと学力をつけなければいけない」と認識しているのでしょうか。子ども達の自覚はあるのでしょうか。

(上村教育振興課主監)

数値的なことから言いますと、無回答率がだんだん少なくなっています。学校の意識としても、子どもの力がこの場面で出せるだろうか、というのが非常に大事になってくると思いますので、そういう部分でいうと、ずい分と意識は変わってきています。調査のためというわけではないですが、自分の学んできたものが、力を出し切れるかどうかは、以前より浸透してきているように感じています。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。なかなか難しい問題になっていると思います。ほかにご意見はありませんか。

取り組みの中で「管理職の研修」と「各先生方の研修」があると思いますが、課題が明らかになっているという部分に向けて、どういう指導者の取り組みを今後していくかというところが生かされているとは思いますが、もう少し詳しく説明をお願いします。

(上村教育振興課主監)

特に意識をしているのが教頭で、制度が変わって校長登用の試験が無くなって、教頭から校長にという登用になっています。教頭が、学校経営の力をつけていくことが非常に大事になってきていると思います。そういう視点の中で、学校での実務的な部分を教頭が担っておりますが、校長の補佐をしていきながら、これからの社会を広い視野を持ち、考えていける、そういうふうな研修体制を組めていければと思います。

あと、研究主任、道徳、キャリア担当も第2・第3のリーダーですので、そういうものについてはしっかりと研修をしていかななくてはと感じております。

(浜田委員)

学校より保育園の関係で、あけぼのとかなかよしとか大きな所をちゃんと管理職として位置づけないと、多くの職員を抱え、それも変則勤務もあり形態も正職員から契約もあった中で、一つ

の考え方をまとめて作っていかなくてはならないというのは、管理職としても高度なマネジメントがいると思いますので、その辺を見直していただきたいなという要望です。その中で子ども達を次の世代につなげていかなくてはならない、単に預かっているのではなく、その中に教育が入ってくる、いろいろな問題も生じてきているのも対応しなくてはならない、現場としてもかなりの大変さがあるのではないのかなと思いますが、その考え方を少しお聞きしたい。

(山崎総務課長)

人事のことについては総務課にも関係がありますので、私がお答えをして構いませんか。

先の議会でも同じような質問をいただき、答弁したわけですが、まず一つ、香美市としては、園長を今の班長級に位置付けています。主任とか副園長を係長級、後は主幹、主事と段階的になっていますので、班長級といえども同じ責任があろうかと思えます。その中で、園長と同等な人はいませんので、一番の格上のところでやっております。逆に、そういったところで責任を持って園の運営をやっているのが、香美市のスタイルです。高知県全体も同じスタイルをとっているところが多いです。

(浜田委員)

各地域に保育園があった時代と、今県内でも珍しいくらいの大人数の園児と職員を抱える保育園が2つあるということ、そこでいろいろな問題も生じている部分に関して、従来の人事組織の考え方でいいのか教えてください。

(山崎総務課長)

規模について、おっしゃられているように原因もありまして、ただ今までどおりの運営をしているかと言えばそうではないです。今までは、園長と主任は各1人でやっていましたが、現在は副園長が2人、主任が2人、合わせて5人体制で協議をしながら、進めているという体制はとっています。副園長、主任にそれぞれ責任を持たせ、それを統括的に園長がまとめていくというスタイルを香美市はとっています。あとは現場作業で毎月職員会をして意思統一を図りながら、行政の思いとか職員の思いとかを反映していくような形をとっています。

小学校との接続の関係になりますが、もともとの発端は特別支援教育がありまして、そういう部分でのつなぎはやっていかなければいけないということで、体制を内部的にも検討してつなげていました。それと同時に保育指針が新たに4年ぐらい前から厚労省から示されましたので、保育にも教育をという言葉が指針にも取り入れられ、保育から小学校に上がる時に、子ども達一人一人について、個人の特徴であるとかを書いたものを小学校へあげています。ただ、それを発展していかないと実効性があるものにはならないと思います。

(宮地委員長)

「幼稚園教育要領」というのがありますが、保育所も中身は同じです。香美市には、私立の幼稚園もありますので、いずれにしても、ほとんどのお子さんが市内の小学校に入学してきますので、いかに充実を図っていくか、我々に課せられた仕事の一つです。大規模の保育園の勤務体制の複雑さや病児保育も言われています。今後、管理職の充実を図られたらどうですか、という浜田委員の意見をご一考いただければと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。ほかには。

(法光院市長)

7ページの食育の評価が『4』になっていますが、昨年いろいろな活動をしていたのに『4』にとどまっているのはなぜかという事と、6頁の「健康な生活の推進」で評価が『4』で動いていない。香美市の子ども達の食の問題で、どのような状況で、どのようなところが浮き彫りになっていますか。

(上村教育振興課主監)

この事業につきまして一定の成果も出てきています。『4』というのは結構頑張っ取り組みもできていたという評価であろうと思います。ただ、主には栄養士が入っている学校が中心になっていますが、これを広げていく段階で、定期的に会を開いて充実を図っていきたいと思います。子ども達の状況については、「肥満」や「やせ」がかなりありますので、そちらの対応も必要だと思っています。

(法光院市長)

それは健康の方ですよ。食の方はどうなっているのかなと。以前は朝食がとれない子ども達の状況が、体力とか学力などさまざまな発達の問題の分析をしたと思いますが、その後、改善ができているのか、そのあたりはどうでしょうか。

(上村教育振興課主監)

研究を進めていく中で一定の成果は出てきているととらえています。

(時久教育長)

食育が『4』については、大宮小学校が「スーパー食育スクール」をやっていて、今年で3年になります。非常にいい実践をしていて、国からも視察が来るぐらいです。1年目にその状況になっていて、「塩分」をとりすぎないように医大と提携して尿検査を行いながら、データもしっかり出しながらいっているのが、大宮小学校の子ども達と話していると普通に「塩分の取りすぎはいかん」と出てくるぐらいです。1年目は非常によかったのが、2年目は栄養教諭のいる学校に広めていくということで、楠目小と大柵小中もやっています。この2校は尿検査はやっていませんが、同じ考え方で非常にきめ細かくやっています。同時に市内全部に大宮小が作った食育ノートを配布し、さらに突っ込んだ食育をしています。評価が『4』なのは、大宮小学校と栄養教諭がいる学校についてはずいぶんでき出したのですが、他のところについてももっと広めてしっかりさせたいという思いもあり、『4』止まりになっています。全体的に言えば、前よりもぐっと上がってきています。朝食の欠食はまだあります。県も市も課題となっている「肥満」のこととか、生活リズムについては最低3回、何回もチェックしながらやっているので、子ども達も意識化はしているのですがまだ課題はあります。

(山崎総務課長)

5段階評価というのが、どのあたりが平均で、どのあたりがいいのか分かりませんね。

(法光院市長)

それは難しいです。子ども会議だって、子ども会議がなかったころに比べればすごいことだと思いますし、見る人から見ればまだまだと思うこともありますので、評価することは難しいと思います。その基準に何を持っているかが大事だと思います。

(山崎総務課長)

ありがとうございました。学校教育については学力、食育などいろいろな意見をたまわりました。この意見を生かしていただければと思います。それでは、保育部門の報告をお願いします。「学ぶ」「つながる」「未来を拓く」の視点でご報告をお願いします。

(横山教育振興課長)

それでは、「つながる」という視点で、資料の8頁の「子育て支援と親支援の推進」の2から10、先ほどの保育との関連の話もありましたが、出産前から就学前の支援ということで、ニーズに合わせて事業の充実を図るということになります。

具体的に言いますと、2番の「子育て専門家支援家庭支援推進事業」では特別支援保育コーディネーターの配置や家庭支援員の配置をして支援を行っています。

3番の「子育てひろば」につきまして、子育てセンターなかよしは、月曜日から金曜日まで、なかよし広場を開設しており、子育てセンターびらふでは、昨年5月より、平日毎日開催にしました。年間の利用延べ人数も3,000人を超えている状況です。

4番の「子育てに関する相談・援助」においては、保育士、栄養士、保健師等専門スタッフの協力を得まして来所、電話等の相談に応じています。

5番の「地域の子育て関連情報提供」において「子育ておひさま通信」、「楽しい子育て応援します」の発行・配布、ホームページの掲載を行い、さまざまな情報発信をしております。

6番の「子育てに関する講習会」において、子育て講座・講演会の開催、助産師によるふれあいマッサージや小児科医師等による講演会等外部講師による講演会の実施や歯科衛生士による歯科講座、栄養士やヘルスマイトによる食育講座を実施しています。

7番の「子育てサークル支援」では、子育てサークル交流会、子育て支援団体のろばみみが開催している「ろばみみ会議」への参加、香美市立図書館と連携し、地域で活動している「山田おはなしの会」の協力のもと絵本の読み聞かせを毎月実施しています。

8番の「一時預かり」ですが子育てセンターなかよし・びらふで月曜日から金曜日まで実施されており利用延べ人数は600人を超えています。

9番の「マタニティママのつどい」は健康介護支援課と協働で実施しております。保健師、助産師、栄養士等専門スタッフによる講話と実技を実施しています。

10番の「子育てサポート体験」では山田高校と連携し、「子育てサポート体験」を実施しています。また、中学校や健康介護支援課と連携し、思春期保健に関する検討会を実施しており、それぞれ回数を増やしたりしながら充実の方向を示したりしています。以上です。

(山崎総務課長)

それでは幼保からの報告がありました。ご意見はありませんか。

(浜田委員)

10番の評価のことで『4』から『2』になったのですが、参加人数が19人から9人になったからですか。

(横山教育振興課長)

参加者が少なかつただけのことで、中身は変わっていません。

(浜田委員)

中身は変わっていないのなら、数字の基準はなんですか。参加人数より、目的に合った内容を実行しているかどうかが問題で、実行の仕方の課題は確かにあると思うのですが、それが変わってなければ、数字だから、分かりやすいといえれば分かりやすいですがそこばかり追いかけていくと、目的から離れていく場合もあるので、どうかなというところがあります。

(山崎総務課長)

評価基準についてのご質問でした。それについて何かありますか。

(横山教育振興課長)

参加人数については、年度によってばらつきがありますので、内容の充実が大事だと思います。参加しやすい体制や、参加の呼びかけをしっかりとしていくということで、人数だけによらない評価に基準をもっていきたいと思います。

(法光院市長)

「子育てサポート体験」というのは、生徒が赤ちゃんに接する経験を支援するということですよ。赤ちゃんに参加してもらわないといけない。また赤ちゃんのお母さんの理解も必要になってきます。そこのところはどうだったのかが大事だと思います。参加者が少なかつた理由もあるだろうし、内容も今までと違った事をやっている、おもちゃを抱かせているのならもっといいおもちゃを購入できたなど、変化が中にあると思います。そういった中で、進んでいないことには訳があると思います。そういうことをこの会議の中で聞きたいし、こうしたらいいという意見も出てくるので、説明をする中に数字が変わっているところについては、特に注意して報告していただいたら、私達も注目して意見が出せると思います。

(山崎総務課長)

「子育てサポート体験」のもともとのきっかけは、「子育て広場」に保育士希望の学生の参加希望からです。一時は香北中にも参加を呼び掛けたこともあります。

現状は進んでいると思いますが、きっかけはこういうことなので、この数字はさみしく思います。取り組む姿勢が『2』になったのかなと思いますが、中身がよければ参加人数も増えると思いますので、一定の目安にはなろうかと思いますが、もう少し取り組みを充実させていくべきではないかと自己評価を厳しくしているのではないかと思います。

(時久教育長)

8頁の2番「子育て専門家支援家庭支援推進事業」について、26年に保育コーディネーターの配置をしていますが、これがいい効果をあげました。それまで外から園の中に人が入って行くのはもつてのほかというのがありましたが、小学校の校長先生を退職された方が、最初は「園を理解する」という態度で入っていただいて、いろんな話を聞きながら、特に特別支援教育の必要

な子ども達の園の困っているところに入っていき支援をし続けたら、この人がいないといけないという状態になり、その先生がお話しますということになると、たくさんの方が集まってくるぐらい信用されています。それで評価が『4』ということになっていますが、良かったのもう一人増やしたら園の保育も変えていくのではないかという思いもあり、増やしたのですが、やってくれる人がいないし誰でもいいわけでもない。園の保育そのものを変えていきたいという狙いがあるので、いろいろ話をしていたのですが、園長先生も誰でもではだめだと。先生達が信頼して話を聞こうとするような人にやってもらいたいので、県の幼保支援課とも相談をしていたが、結局人材は見つからないまま1年が過ぎてしまったと。今年も探しているのですが、適当な人物が見つからないので、選んでというよりは入ってもらって一緒に勉強をしてもらいながら行こうということで、今、模索をしているところです。

保育全体の今後の話ですが、保育そのものの保育内容について無いのがこの推進計画の大きなマイナスです。なぜないのかというと、検討する時、保育内容まで突っ込めなかったという実情があって、園長先生も検討に入ってもらったのは大きな変化ですが、保育の内容を検討するところはここの中には無い。アプローチカリキュラムを保育らしく出せるのは非常に低いのでこれからきりこんでいかなければならないので検討委員会を立ち上げてやらなければならないと思います。

(山崎総務課長)

年齢別の発達段階における成長の過程が示され、それに対しての取り組みというのが香美市の教育ではやっているのですが、それを文字化したものがないと、そのあたりが課題ではないかということですね。

(宮地委員長)

前にも言ったかもしれませんが、どこの保育園でもそうですが保育園で子ども達を預かった時、どのような子ども達に育てるか示すものがないですよね。親にとっても、一般の人にとっても、この保育園がどのような保育をしているのか、まるでわからない。目標もなければ、その過程も段階を経てないといけませんが、それが完成されていない。以前につくってそのまま置いてあるのでしょうか。

(山崎総務課長)

保育目標も各園で毎年立てています。保護者向けには出していると思います。

(宮地委員長)

子どもが行って一度も見たことがないのですが。学校には学校要覧があり一目でわかるのですが、保育園には無いですよね。少なくとも一般の人が来たときに分かるようなものをつくらなくてはいけないと思います。

(山崎総務課長)

保護者向きには、卒園のアルバムとか冊子をつくっていますが、その中に示したりしていますが、それが浸透しているかといえば、どうなのか。保護者は手に入ると分かりますので分かりますが、一般向けに普及しているかといえばそうでもないです。

(宮地委員長)

もう少しオープンにしなければいけないと思います。それができて初めて小学校とつながるのではないかと思います。

(時久教育長)

「香美市の教育」という冊子に各保育園の方針が示されていますが、年齢別の一年間で子どもをどういうふうに育てるかを書いたものがありますが、それを改善しなければならないことと、それと幼保支援班が、人を雇うことや大量の文書作成に必死で、具体的な保育の日々のあり方については責任を持ってやれる人がいない状態です。研修という名前でもっていろいろな人に来てもらったり、送り出したりしてやっていますが、この中で保育を日々指導していくということは、今はなかなか難しいですが、探りながら行って、切り込んでいけるようなムードをつくっておいてやっていかないとだめかなと思います。

多分、保育がものすごくまくいき、子ども達がのびやかに遊び中心で伸びていくことが大に行われたら、園庭が草花でいっぱいになるはずですよ。絞れば色が出る朝顔や、実のなる木や雑草など、子どもが自分の考えでとってくることができるものがないといけないのですが、無いので、先生が用意したものでしているのかな、という感じがしています。子どもが自由に発想して遊んでいるようではないので、まだまだなのかなと思います。

(宮地委員長)

保育園に行った時、よく人不足という話を聞きますが、そこで止まったら保育は止まってしまうので、人が足りなくても今いる職員でやれることはいっぱいあると思います。行政も努力をしなければいけないが、今の陣容の中でどのようなことができるのか考えていかないと、保育そのものの発展はないと思います。

(山崎総務課長)

教育長の立場から悩ましいご意見をいただきました。委員長がおっしゃったことも、行政の立場からすれば、身にしみて感じなければいけないと思います。忙しいで終わったら発展はないのは、どの分野でもいえることだと思います。今後出てきた意見を反映していければと思います。よろしくお願いします。

それでは最後に生涯学習振興課から、「学ぶ」「つながる」「未来を拓く」の視点から報告をお願いします。

(久保生涯学習振興課長)

それでは基本的構想の3番目ということで、「生涯を通した豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実」の中から、13頁の「芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進」で27年度に取り組んだことは、文化協会加入サークルを中心とした利用に加え、人材バンクを利用した新たな活動に対して、部屋の使用料を一部軽減するなど、新規の文化活動サークルの支援を行う事で、施設活用の促進につなげました。次に美術館においては、芸術サークルの活動の場としてアトリエ・展示室を提供し、また、文化展や小・中・高校生の作品展示の他、子育て支援サークルの利用においては、使用料の免除等で活用促進をはかり、幅広い層が芸術に触れる場を

提供しやすくしました。内部評価としましては『3』です。

2番目としまして「民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進」で27年度の取り組みとして「いざなぎ流舞神楽保存会」や「おなばれ保存会」の無形民俗文化財の公開活用は、定例日、おなばれでしたら11月3日ですが、3日以外にも依頼をうけた保存会が公開するなど、積極的に行われました。助成金を活用することができたので、かねてから新調を希望していたおなばれの甲冑を購入することができ、古式の復活と保存をすることができました。ということで、内部評価は『3』となりました。

3番の「生涯スポーツの推進」で香美市体育大会や軽スポーツ大会等の各種大会を開催しました。また、スポーツに取り組むきっかけとなるよう、ファミリースポーツフェスティバルや体力テストを行いました。実施に関しては関係団体と連携した運営ができました。宝町グラウンド改修工事の施工等、スポーツ施設の環境整備を計画的に進めています。ということで内部評価は『3』となっています。「公民館活動の活性化」において、成人教育においては市民大学（講演）を4講座、市民セミナー（講座・教室）を10講座、パソコン教室を2講座（各8回）実施しました。また、人材バンク（まちの先生）の登録者数も20名（1月現在）と増加し、登録者を活用した教室の実施やサークルが新たに発足しております。青少年教育については、特に人気のある英語教室を増やしました。地区公民館については、各公民館が特色のある事業を実施してきました。内部評価としましては『3』です。

最後に「図書館活動の充実」について、27年度に実施したことについては、資料整理と図書館環境の整備について職員研修を行いました。講師の方のアドバイスをいただきながら、古い図書資料の整理（除籍処理・書庫への移動）や、館内の資料配架・展示コーナー場所等の移動を行いました。高知工科大学の吹奏楽サークルによるミニコンサートと音楽を交えた読み聞かせイベントを新たに開催しました。毎年度開催している事業に関しても内容の見直しを行った結果、参加者に好評でした。内部評価としましては『3』です。以上です。

（山崎総務課長）

生涯学習から進捗状況につきまして報告をしていただきました。ご質問、ご意見を伺いたいと思います。

（時久教育長）

今まで見てきていただいたら、学校教育はものすごく複雑で、保育は保育内容部分が欠落していて、生涯学習は、本当は市の教育を全部受け持っているものすごい分野なので、5つぐらいにまとめてしまうと広いので評価も『3』になってしまいます。だから生涯の特に力を入れた「ここは」というものを抜き取っていくと、がんばったら『5』まで行くようなこともどんどん行き出すと思うのですが、非常によくやっている部分と、もう少しの部分が混ぜられてこのような評価になっていると思います。中身のことは、推進計画が10年なので5年で見直すようにしてあるのです。今、3年目を行っているので、見直すのは今年を入れて3年で見直さなければいけません。その時に欠落している分とか、小分けにした方がいいという分を、逆に学校教育は細かくしているの、そのあたりの整理をしながら、次に向けていかないと成果が見えにくいとい

うことがはっきりしているのです、課題も非常に見えてきたということです。大事な3年にかかっているということです。

「図書館の充実」は図書館の建設も合わさり、振興計画をつくった時かなり話し合っただけです。図書館が「香美市の教育」をイメージできるように仕上がっていかねばならないと思うので、図書館とはいかにあるべきか議論しながらそこにすべて集約していくと思うのです。本を借りるだけの図書館ではなく、「香美市の知」を光らせる場所にしないでいけないのでそこを当てているところです。

(山崎総務課長)

教育長から全体に関するご意見をいただきました。各論もさることながら、全体としてバランス良く進んでかなければならないというふうに思いました。

(法光院市長)

今、教育長がおっしゃられたこととても大事なことをご指摘いただいたと思います。市民の皆さんがこのまちで暮らしていく上で、やっぱり経済がしっかり元気であってほしいと思う人がたくさんおられます。経済だけでなく、このまちで豊かに暮らしていきたいという思いがありますので、そういった意味で文化的なもの、スポーツを含めて人々との交流等が行われるようなことが、どんなふうに進められているか、報告の中に詳しく出てくる。そのことでどこを強化すればいいのか、何が足りないのかということを知って、行政としても動くわけですので、教育長が言われるように、ぜひ、この見直しの中でしっかり皆さんに分かってもらえるような、頑張りだけでなくできないことも分かるような、少し計画を見直していただけるのは大変ありがたいことだと思います。

図書館についてもいろいろな思いのある方がいます。これまでも協力してくれましたけれども、いよいよ中身に入っていく状況になっています。こういった立場から、市民の皆さんが自分達の図書館をよその物まねだけでなく「香美市の図書館を建てるんだ」という思いでやっていただくのが大事だと思いますので、市民の皆さんに目を向けた報告書にしていきたいなと思います。

(山崎総務課長)

市長から、期待とともに方向性が示されたと思います。他にご意見はありませんでしょうか。

市長の言葉でこの会の締めをまとめていただいたように思われます。今日は学校教育、保育、生涯学習の貴重なご意見がたくさん出ましたので、今後これを教育行政に生かせればと思います。これで大綱の進捗状況に関してはここで締めまして、その他の報告がありますでしょうか。

無いようですので、これで香美市総合教育会議を終わります。

皆様、お疲れさまでした。

(閉会 午前11時43分)

会議の経過を記載して相違ないことを証するためここに署名する。

香 美 市 長

香 美 市 教 育 長
